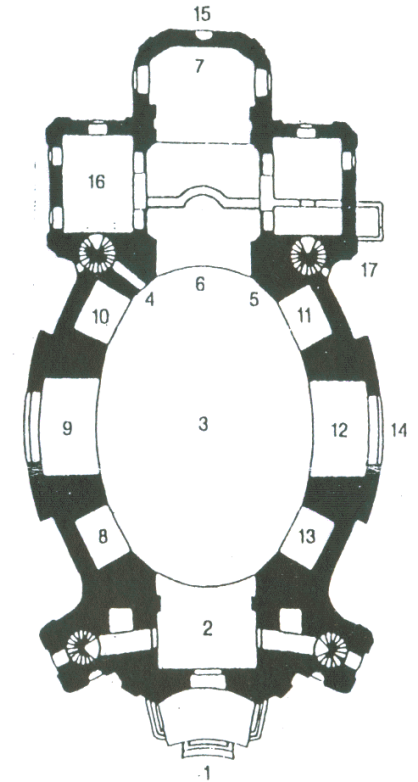


PETERSKIRCHE WIEN

聖ペーター教会

平面図の解説

1. 正面入り口
2. 入り口玄関 -パイプオルガン
3. 天蓋フレスコ画
4. 説教壇
5. ネポムクの聖ヨハネ祭壇
6. 皇帝レオポルト1世の紋章
7. 中央祭壇
8. 聖バルバラ祭壇
9. 聖セバスティアン祭壇
10. 聖家族祭壇
11. 聖ミヒャエル祭壇
12. 聖フランシスコ・サレジオ祭壇
13. 聖アントニウス祭壇
14. カール大帝のレリーフ
15. 聖ミヒャエルと聖ペーター
16. 祭具室
17. 地下聖堂と事務室の入り口



教会から出られる前に、中央祭壇の絵(7)をご覧ください。このM.アルトモンテによる作品は、エルサレム神殿の美しの門での聖使徒ペテロ(聖ペーター)と聖ヨハネによる生まれつき足の不自由な男の癒しの場面を描いています。そして聖ペーター教会が4世紀以来行ってきた岩(ペテロの意)のように揺るがない信仰と信仰の一致のためにどうぞお祈りください。

教会を出られ、ペーター広場に立たれたら、教会の周りを散策してみてください。静かなたたずまいと同時に非常にダイナミックなこの建物の驚かれることでしょう。(14)記念碑 カール大帝による中世の聖ペーター教会創設の伝説(R.ヴァイアス作)、(15)見事に形造られた後陣、聖ミヒャエルと聖ペーターの2つの像(マッティエツリ作)、(1)前方 鉛の像で飾られた正面入り口(A.アルトモンテ作)。またそこにはペストの際の皇帝による誓約が記されています。

この教会は、信徒会の一つである聖三位一体兄弟会によって建て上げられ、1733年に献堂され、完成しました。1970年以来、当時のウィーンの司教、ケーニヒ枢機卿がこの教会をオープン・デイ(www.opusdei.org)の属人区の聖職者が司ることを委託しました。

Rektoratskirche St. Peter

A-1010 Wien, Petersplatz; Tel.:+43/1/533 64 33

E-Mail: peterskirche@utanet.at

www.peterskirche.at

Erste Bank

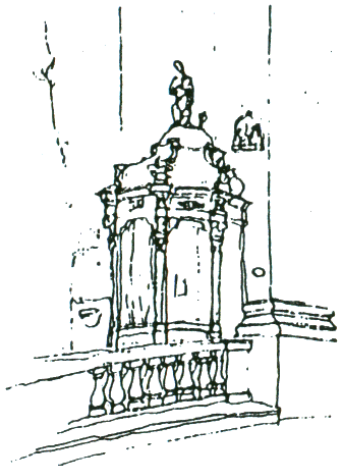
Kto. Nr. 000-51292, BLZ. 20111

BIC: GIBAATWW

IBAN: AT482011100000051292

聖ペーター教会にお越しの皆様へ!

当教会の修復、維持のため毎年約120.000ユーロの費用がかかります。皆様の献金のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。





聖ペーター教会

ウィーンで最も美しい教会の一つ、St.Peter(聖ペーター)教会によくそっくりでした。この名所を訪れて下さった皆様に、心を込めてご挨拶いたします。St.Peterは神の家(教会堂)であり、ウィーンで初めてキリスト教の教会が出来た場所です。かつてはローマ軍の兵営でしたが、その後、ロマネスク様式の三廊式のものになり、18世紀初めには、今日見られるような傑作が建造されました。バロック建築の巨匠、ルーカス・フォン・ヒルデブラントの設計です。ここでは1600年以上も毎日続けてミサが捧げられています。

<お願い>

教会内をご覧になれる際には、教会という神聖なる祈りの場所におられますことを念頭においてお静かにお願い致します。

この教会は聖三位一体に捧げられており、信仰の本質がシンボル化されています。そのことは中央祭壇(7)、貴重な説教壇(4)(M.シュタインル作)、素晴らしい天蓋フレスコ画(3)(J.M.ロットマイヤー作)やその他の部分において表現されています。

ウィーンで初めて5月マリアの祈祷会が持たれたこの教会では、マリア崇敬もさかんに行われてきました。それで多くの聖母マリアの画が飾られています。中央祭壇(7):「処女懐胎」(19世紀の宮廷画家、クペルヴィーザー作)、脇祭壇(13):「聖母マリアのみこころ」(クペルヴィ

ーザー作)、(9):繊細な「マリアのご加護」(1766年、ウィーンのS.ローゼンシュティングル作)、(11):「良き助言者の母」(教皇レオ13世より寄贈)、天蓋フレスコ画(3):「マリアの戴冠」、説教壇の反対側(5):華麗な「ネポムクの聖ヨハネの殉教」(L.マッティエツリ作)、その上にある「ブンツラウの美しき聖母像」。M.シュタインルは椅子などを含む内装のみならず、暖かく落ち着いた、祈りに導かれるような本物の信仰的雰囲気を作り出しました。

中央祭壇から数えて1つ目の脇祭壇(10):「聖家族祭壇」(M.アルトモンテ作)と(11)の「聖ミハエル祭壇」(J.G.シュミット作)の下の部分に聖遺物箱があります。その中には2人の殉教者の遺骸が納められております。ローマの地下墓所から枢機卿コロニッツによって1733年に運ばれたもので、ウィーンでの当時の流行に合わせて着飾られました。聖家族祭壇の下(10):2002年に列聖されたオプス・デイの創立者ホセマリア・エスクリバーの画(M.フックス作)がみられます。

さて、もう一度上方をご覧下さい。素晴らしいドーム型の天上(3)豊かに装飾された窓、ウィーンのJ.G.シュミット作の4人の福音史家と4人のラテン教父の彫刻が施されている三角隅壁(ドーム下部の丸い窓の横の部分)、凱旋アーチ(内陣と身廊を区切るアーチ)の上にはレオポルト1世のモットーが書かれている帝国の紋章(6)が付いており、また後ろにはオーストリアで最も美しいパイプオルガンのひとつがあります。

